

## メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一15:50～58 「私たちの勝利」

[50]「兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません」

「血肉のからだ」とは今の私たちの弱り、老い、朽ちていく肉体のこと。この肉体のままでは私たちは永遠の神の国へ入ることはできない。

[51]「聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです」

「奥義」とは今まで誰も知らなかったこと。パウロはこれを神から特別に啓示されたのであろう。ここで「眠る」とは死ぬという意味。血肉のからだでは神の国へ入ることができないからと言って、この地上に生きている私たちもいったんみな死んで、新しいからだを与えられるのを待たなければならないのかということそうではない。キリスト再臨の時には、その時地上に生きているクリスチャンも、すでに死んでいるクリスチャンもどちらもみな変えられるのである。

[52-53]「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです」キリスト再臨の時、終わりのラッパとともに一瞬のうちに私たちは死ぬことも朽ちることもないからだに変えられる。その時の順序として、まず、すでに死んでいるクリスチャン。次にその時地上に生きているクリスチャン。しかしこれらは一瞬のうちに起こるので時間的な差はあまりないであろう。→ I テサロニケ4:13～17

[54]「しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、『死は勝利に飲まれた』とするされている、みことばが実現します」

パウロはここで、神が死に決定的に打ち勝ち、祝福をもって民を顧みられるというイザヤ書25:8のことばを自由な形で引用している。

[55]「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか」ここではホセア書13:14が引用され、主が死に打ち勝たれたことが宣言されている。

[56-57]「死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました」

「とげ」は刺すもの、傷つけるもの、毒を注ぐものの象徴。もしアダムが罪を犯さなかったならば人類に死は入らなかった。しかし彼は人類の代表であり、彼が罪を犯したことにより、すべての人間が死すべき者となった。→ローマ6:23 また罪は神の戒め、律法をもってその力を発揮する。律法という基準がなければ違反も不法もなくなり、罪に定められることもない。しかし、現実に神の律法は存在し、罪の性質のうちに歩む私たちはそれを守ることができないことを知るのである。しかしパウロはそこだけで終わることなく、神が御子イエス・キリストによって勝利を与えてくださったことを感謝する。十字架上で私たちの罪を負って死なれたイエス・キリストを救い主と信じる者は誰でも

死と滅びより救われ永遠のいのちが与えられ、復活の希望が与えられるのである。神の御子、主イエス・キリストこそ私たちに勝利を与えてくださるお方なのである。

[58]「ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから」

この章の最後の58節はパウロのコリント人たち、そしてすべての信仰者たちに対する励ましのことばである。私たちも様々な困難の中にあつても信仰に堅く立って、いつも主のわざに励む者になりたい。